



しょうれん 力障連「わ」かい報ほう

http://challenged-catholic.net/ No.101 2024.4.16 はっこう発行

二〇二四年四月十六日発行（毎週火曜日）AJU一五一四七号

昭和五十四年八月一日

低料第三種郵便物承認

定価一〇〇円

目次

ぜんこく しょうがい なかまし
全国の障害のある仲間を知ろう

かい しょうかい ながさきたいかいさんかとうこうぶん
アルバの会の紹介、長崎大会参加投稿文

しょうれん さんか き ぼ
力障連に参加、そこは気づきの場だった

しょうれん し ながさき い
力障連を知りたくて、長崎に行った

ぼく ふくいん
僕にとっての福音

しょうれんながさきたいかい ふ かい
力障連長崎大会を振り返って

しょうれんながさきたいかい さんか
力障連長崎大会に参加して

しょうれん
力障連によせて

しょうれんながさきたいかい さんか
力障連長崎大会に参加して

わたし あゆ ひかり
私たちを歩ませる光

きかんし そうかんこう ごう きじしょうかい
機関誌「わ」創刊号から100号までの記事紹介

ゆだ れいこ
湯田 令子 2

やまぐち た え こ
山口多恵子 3

はるき ゆういちろう
春木雄一朗 3

なかの やすおみ
中野 泰臣 4

かしたに ゆ み
榎谷 由美 5

かしたに かずえ
榎谷 一枝 5

なががわ みちよ
中川 道代 6

みやもと あきこ
宮本 暁子 7

8

ぜんこく しょうがい なかまし 全国の障害のある仲間を知ろう

かいしょうかい アルバの会紹介

わたし じゃくし ちょうりよく しょうがい も もの ぜんもう
私たちは弱視と聴力に障害を持つ者、全盲
ひとり だんせい ふたり けんじょうしゃ にん
の一人の男性、そして二人の健常者の6人で
けっせい
結成されています。

だんせい きょうかい き
その男性が教会に来たことで、このアルバ
かい けっせい つよ きずな むす
の会は結成され、強い絆で結ばれています。

ちなみに、“アルバ”とは、イタリア語で
あさひ まえ しろじろ ひかり ゆらい
「朝日がのぼる前の白々とした光」から由来
しています。この光が昇ると万人の人に光が
あたる きぼう ひかり みな かん なまえ
当たる、希望の光を皆が感じる、すぐに名前
き
が決まりました。

しょうがい おもに せ お すく もと きょうかい
障害の重荷を背負い救いを求めた教会で、
み 見えるはずもなく、聞こえるはずもなく制限

さされて、こどく かん はな あいて かぎ孤独を感じ、話す相手も限られ、
ふあん たたか せいかつ不安と戦う生活ではなかったか。そんなわたし

ちでも何かやれるのではないかと考えました。
ほんとう ひつよう ひと もん ひら ところ ひら本当に必要としている人に門を開き、心を開
とも なかま み ひとびとき、共に仲間になる、まだ見ぬ人々にたどり
つ ひ もくひょう着く日を目標に、これからも障害を障害とせ
ささ い おもず支えあって生きていきたいと思ひます。

そして、この活動をする私たちには、かつどう わたし そうげい送迎
て か ひとびと たいせつしたり手を貸してくださる人々が大切で、あ
そんざいりがたい存在です。

くまもとけんほくぶ い ち しょうきょうくきくち やまがきょう熊本県北部に位置する小教区菊池・山鹿教
かい で あ にん はじ会で出会ったこの6人で始まり、そしてそれ
つづ しょうれんながさきたいかい い みに続く力障連長崎大会は、意味があり、しか
かみさま みちびるべくタイミングですべては神様からのお導
かくしん かんしゃ ねん たきと確信するほど感謝の念に耐えません。

しょうれん さんか 力障連に参加、

そこは気づきの場だった

湯田 令子

初めに思ったことは、母校で大会が行われ、すぐ近くの修道院に恩師であるシスターが転勤で来られているので逢える!!ということだ。

80歳近くになられ、またいつお逢いできるものかと、心がはやっていた。ただ、私の眼のことは、なるべく伏せようと思っていた。心配をかけたくない。私の元気な姿を憶えていて欲しかった。帰り際、シスター安岡のもとへ行くとベールの隙間から、白髪がのぞいていた。大好きだった先生、長い年月が過ぎました。こうして逢えたお恵みは、沢山の人の力でたぐり寄せられた暖かい時間でした。さて、本題に入ります。「力障連」のことは知らなくて、今回、長崎で大会があることにより知り、教えてもらった次第です。どんな出逢いがあるか、神さまがお集めになる意図を自分で感じとらねばと、ワクワクしていました。

ボランティアの方々の多さ、たくさんのいろんな障害をもつ方々。でも、皆さん元気がいっぱい、学びとろうという意識が高いと感じます。

分科会に入ってから、私達の為に？と感じる!! (文字が大きい!) ルカ福音書：18章 35～43節 (エリコの近くで数人をいやす)の箇所。この盲人が道端に座り、物乞いをするまでの間、どんなにつらい思い、日々を経て、ここにたどり着いたことだろう。この想

いを自分の中でつむぎ生きてきたからこそ、「イエス様のお通りだ」と聞いた時、心の底からの叫びが出た…心の叫びにこそ、イエス様は立ち止まり、そばに来て下さる…癒してください。

この心の叫びが自分にあるだろうか。見えなくなる不安、いろんな失敗をしながら、「仕方がない」と、心まで暗くなる日もある。「できないからやって欲しい。でもして欲しいのはそうじゃない」と、家庭でも葛藤があるある。我慢もする。相手側も大変。できていたことが、できないのは、また進んだのかなど、心配もかける。

まずは、家庭の中からスタートだ。相手の話を聞く。こうしたいと伝える。できる事、できない事、こうした方が助かるとはっきり伝えようと、家の中のテーブルクロスの色から、コップの色まで変わった。こうして一つ一つが理解されていく。助けてもらえる。伝えること、聞くこと、改善に沿うこと、こうして折り合っていく。まず、身近なところから。そして、わかち合い、自分ができることを、して欲しいことを周りの方にもしていく。そして、まだこれから出逢う人々に愛あるシグナルを自分達から伝え広める力を。



そこには必ず神が共におられ、愛の恵みを
賜りながら、希望の中に信仰の喜びを、たく
さんの気づきを与えて下さると信じている。
このことに気づき、行動する力をもらえた
大会であった。

しょうれん し 力障連を知りたくて、 ながさき い 長崎に行った やまぐち た え こ 山口多恵子

ミサの終了後、お知らせの時間にキビキ
ビとした声で、春木さんがいきなり力障連
のことを話された。えっ、力障連って何だ。
85年生きてきて、これまで聞いたことがな
い。これはさすがに知ったかぶりもできな
い。大きなショックを受けながら聞いている
と、日本カトリック障害者連絡協議会の略称
「力障連」であることがわかった。そしてそ
の全国大会が九州で初めて長崎で開催され
との事でした。今回で第14回となる。私は
その名前も存在も知らずにいたのだ。老人で
ある私は、優しくしてねと思っているのに力
障連のことを何も知らない。今更ではあるけ
れども、私もその長崎大会に参加して、少し
でも理解を深めたいと思ひ立ち、幸いにして、
私よりも5歳若い妹が同行してくれることにな
った。資料をいただいて読んでいくうちに
大きな感動と期待が膨らんだ。詳しい内容が
きつと宮本さんや春木さんが書くだろうか
ら、私はのんきなおばあさんが感じたことを
記します。

まず、基調講演のテーマ「インクルーシブ
防災（誰も取り残されることのない防災）に
ついて」東 俊裕さん（ご自身も障害者）が

体験された熊本地震の中で障害者が取り残さ
れてゆく現状を見たことにより、誰も取り
残されることのない社会づくりに立ち上が
られたことを丁寧に話され多くのことを知
った。2日目は前日の分科会の報告があり、
参加出来なかった私にも、障害者の置かれた
立場、思いなどを聞き新たな理解につなが
った。最後に感謝ミサが取り行われ、私として
はこれほどおおきなミサに与かることはなか
ったので、感動で胸がいっぱい、来て良か
った。今回の大会に参加したことで、私として
は障害を持った方の立場、精神的負担に少し
は理解が深まったと思ひ、また健常者と言
われている私たちの立場、そして障害そのも
のをよく知らないことが差別を生む要因でも
あるということ。障害の内容は一人ひとり違
うということ。したがって障害を持った人も
声を上げて発言することが大事だと思ひた。
まず教会の中からも実行していき、社会に
広げていくこと、それが特別の事ではなく、
ごく自然な言動となることなど、たくさん学
びました。今まで無関心であった私が長崎に
行って知ったことをこれから大きなことはで
きないが、身の回りの人たちにも話し、よく
見て、よく聞き、祈り続けることをしたい。
以上です。

ぼく 僕にとっての福音

はるきゆういちろう
春木雄一郎

なんて苦しいんだろう。

なんて悲しい道のりなんだろう。

しょうれん い
力障連に行けば…

しょうれん い
力障連に行けば…
しょうれん つ
力障連にさえたどり着くことができれば、
なに か
何か変わるかもしれない！

「やっとここまで来た」

—イエス様がいらっしゃる—

じゅんしんだいがく せいどう きょうかい
純心大学の聖堂で、フィリピの教会への
てがみ てんじろうどく しかくしょうがいしゃ だんせい
手紙を「点字朗読」する視覚障害者の男性。
それを聞いて、僕は思わず涙があふれました。
「やっとここまで来た」そして僕は、こ
しょうがい い み みいだ
この障害に「意味」を見出すことができました。
くる かな げんいん しょうがい
苦しみや悲しみの原因であったはずの障害が
かち かなが こと
価値あるものとして考える事ができるように
なりました。

み え なかま かなが
見えなくなったことで得られた仲間、考え
かた ちかかん じぶん そんざいいぎ しょうれん さんか
方、価値観、自分の存在意義。力障連に参加
したことで、苦しきや悲しさを仲間と共有し
くろ かな なかま きょうゆう
分かち合うことができ、思い切って参加した
かい いっしょ さんか
甲斐がありました。一緒に参加してくださ
みな かんしゃ
った皆さんに感謝していたします。

ぼく びょうき ねん め にゅうもんしき お
僕は病気になるって3年目に入門式を終え、
ご しょうれん おし
その後、力障連を教えてくださいましたことや、
しょうれん そんざい すく
力障連の存在にとっても救われました。

しょうれん し ぼく おお
力障連を知ったことは、僕にとって大きな
ふくいん
福音でした。

ぼく やみ なか ちか みいだ でき
僕は、闇の中にも価値を見出すことが出来
ました。(マタイ7章11節)僕はそこに聖書の
おくぶか かん あなた
奥深さを感じます。そして、また、病とともに

しょうれんがさきたいかい ふ かせ 力障連長崎大会を振り返って なかの やすおみ 中野 泰臣

こんかい わたし うんでんしゅおよ いちぶかいじょしゃ たちば
今回、私は運転手及び一部介助者の立場で、
さんか うえ じつちよく
参加させていただきました。その上で、実直

かんそう の つよ ききかん
な感想を述べさせていただくと、強い危機感
いだ え さんか
を抱かざるを得ませんでした。参加していた
しょうがいしゃ かたがた しょうがい しゅるい しょうじょう
障害者の方々は、その障害の種類や症状も
さまざま きょくたん ひょうげん ゆる
様々で、極端の表現をお許しいただければ
しょうがいしゃ かず しょうがいじれい そんざい かん
障害者の数だけ、障害事例が存在する、と感
じました。

しょうきょう もと たいかい
その状況の下で、大会のスローガンである、
とも あゆ だれひとりこの きょうせいしゃかい
「共に歩む」、「誰一人取り残さない共生社会の
じつげん めざ もくひょう げんじつか
実現を目指して」という目標を現実化するに
は、担い手不足、マンパワーが圧倒的に不足
しているのでは？というのが、私の率直な
かんそう ひとりひとり じょうたい あ
感想であります。一人一人の状態に合わせた、
こま たいおう おこな ため あいて りかい
きめの細かい対応を行う為には、相手を理解
うえ かんよう おも も よ そ
した上で、寛容と思いやりを持って、寄り添
しせい ひつよう こころ ふ あ ふかけつ
う姿勢が必要であり、心の触れ合いが不可欠
かなが しんか かいご
だと考えます。AIの進化により介護ロボ
ットの普及が、今後期待されるところで
が、やはり血の通ったサポートを行う為には、
にんげん て かいじょ さいぜん ほうほう かなが
人間の手による介助が最善の方法だと考えま
げんじょう いちぶ けんじょうしゃ ぜんい たよ
す。現状の、一部の健常者の善意に頼るの
みでは、やがて限界を迎え、障害者の方々も
せいかつ ししょう きょうかい あし とお
生活に支障をきたし、教会からも足が遠のい
てしまう、という結果を招くのは想像に難し
くありません。早急に、支え手である介助者
ぞうか む たいさく こう ひつよう
の増加に向けての対策を講じる必要があると
かなが しょうれん かつどう しゅうち
考えます。まずは、力障連の活動を周知し、
きょうかい かよ きょうだいしまいひとりひとり なに じぶん
教会に通う兄弟姉妹一人一人が、何か自分に
でき ちい こと はじ かいじょ かいご
出来る小さな事から始めてみる、介助（介護）
こと されること けつ たにんごと
する事、される事は、決して他人事ではなく、
しょうらい じぶん かぞく お え
将来、自分やその家族にも起こり得るとい
いしき も いただ つぎ ぐたいてき
意識を持って頂く、そこから次の、具体的な
うご つな おも
動きに繋がるのでは？と思います。

わたしじん かいじょしよしんしゃ じゅうぶん
私自身、まだ介助初心者で、十分なサポー
トが出来ているとは言い難いのですが、自分

たいけん とお つた しょうがいしゃ
の体験を通してお伝えしたいのは、障害者、
かいじょしゃとも たが えんりょ ふよう
介助者共に、「お互いに遠慮は不要だが、
はいりょ ひつよう わたし よう
配慮は必要だ」ということです。私の様な、
かいじょ がわ たい はいりょ
介助する側に対しての配慮というのは、はっ
きりと、やってほしいことと、やらなくても良
い事を、伝えて頂きたい、という至極、単純
なコミュニケーションのやりとりです。そう
する事により、お互いに快適な交わりの実現
につな かんが
繋がると、考えております。

さいご しょうがいしゃ かたがた われわれ たい
最後に、障害者の方々から、我々に対して、
“ボランティア”という呼称を用いられませんが、
これはなが こべつ かんじょう こ にんげんかんけい
これは永く、個別に感情の込められた人間関係を
きず うえ てきとう
築く上では、適当ではないのかな？と思
います。“ボランティア”よりは、むしろ、“パ
ートナー”という言葉が、よりふさわしいの
ではないか、と思います。やはり、一方的
に、ささえる ささえられるというかんけい
関係ではなく、
たが あいて おも こと きずな つよ
お互いに相手を思いやる事で、絆が強まり、
たいとう かんけい とも あゆ なかま
対等な関係として、共に歩む仲間となれると
かんが わたしじしん ちょうせん はじ
考えるからです。私自身の挑戦は、まだ始
まったばかりですが、これからもしんらい いた
信頼して頂
ける、パートナーシップの実現に向けて、微力
ながら、ふだん どりよく つつ
ながら、不断の努力を続けてまいります。

しょうれんながさきたいかい さんか 力障連長崎大会に参加して

かしたに ゆみ
樫谷 由美

ねん がつ か にち しょうれん
2023年10月14日・15日、力障連の
ながさきたいかい さんか さか おお
長崎大会に参加してきました。坂の多いこと
ゆうめい ながさき こだか じゅんしんだいがく
で有名な長崎の小高いところにある純心大学
からは、まちな うみ み けしき
からは、街並みや海が見えてとても景色もよ
かったです。きちょうこうえん ひがしとしひろせんせい はなし
基調講演の東俊裕先生のお話で
くまもとじしん さい はなし れい だ
は、熊本地震の際のお話も例に出されなが

すべ ひと き つ ないよう
ら、全ての人に気づきをもたらす内容でし
た。ぶんかかい か へんか
た。分科会では、「コロナ禍でどんな変化が
あったか」という内容での分かち合いがあり
ました。たいめん こうりゅう むずか
対面での交流が難しくなり、よかつ
たこと、わる 悪かったことさまざま
ありましたが、こ
の経験をjてこの先にどのように活かしてい
けるのかをかんが つつ たいせつ
考え続けることも大切だ、という
けつろん いた
結論に至りました。

こうりゅうかい き かたがた こうりゅう たの
交流会では、聴こえない方々との交流を楽
しみました。最初はたあい はない
他愛のない話からでし
たが、わたし かよ
私が通っているサークルの話や通訳の
はなし しゅわ ぎじゆつ はなし ふだんせつ ひと
話、手話の技術の話など、普段接している人
からはあまり聞けないような意見なども聞か
せていただき、ありがたいと思
いました。

よくじつ かんしゃ おも たいやく
翌日の感謝ミサでは、思いがけず
にたいやく ありがとうに感謝をせず
にたいやく ありがとうに感謝をせず
にはいら
れませんでした。1 泊2日の慌ただ
しい日程でしたが、実り多い2日間に神様の
あい かん ほんとう おも
愛を感じることができ、本当によかつたと思
います。

しょうれん 力障連によせて

かしたに かずえ
樫谷 一枝

ひとびと く わたし
どんな人々
が来るのかわからない。私
たちは、きょうかい
教会では、メンバーの一人が精力的になっ
てうご
動いてくれる。ありがたい、というよりも、
なんと
かいろいろんな人とつながってとのおも
思いが
わたし つよ なげ
私なんかよりも、ずーっと強い。嘆いてはい
たけれど、ここのま
でのじょうねつ
情熱があつたかと思
いながらながさき
へ。

わたし おも ぜんこく あつ
私なんて、まだまだだと思
う。全国から集ま
っていた。それも、自分一人では何
もできな

一人から、見ただけでわからない人まで。しかし、この人たちも、いろんな困難を乗り越えての今なのだと思うと頭が下がる。それは、何から始めましょうか？初めに、近くの教会の神父様に電話して、そこからの一歩を踏み出しましょうか？一歩を出さないと、何も始まらないと思うから。

そこに、うちのメンバーの一人が先に動いた。そこで私も、友人や知っている神父様に電話をしてみた。長崎大会に参加していた人の所属する教会の神父様と話した。でもその参加していた障害者は、今は教会に来たり来なかったりのように、神父様はあまり関わっておられなかった。やはり、教会の敷居は高いのでしょうか？また別の教会の知り合いの神父様に電話で話したら、昔、子どもたちにどうすれば教会にたくさんの人たちが来られると思う？と尋ねると、「お年寄りが来られる教会」と子供たちが答えたそうだ。つまりは、バリアフリーが必要との回答で、まだバリアフリーの言われ始めた頃だったことを教えていただいた。また、別の教会の友人のところでは、体が不自由な人や、目や耳に障害がある人たちも誘って、障害のあるなしに関係なく、ミサ後、皆でお茶を飲みながら分かち合いをしているそうだ。

教会によってそれぞれだと思つづく思つた。自分は、教会で大切にされていると思つた。神様と聖霊に感謝。

しょうれんながさきたいかい さんか 力障連長崎大会に参加して なかがわ みちよ 中川 道代

「カ障連長崎大会」に参加して、私は「教会が障害者と関わっていくためにはどうすればいいのか」とのテーマで学ぶ分科会に参加しました。私自身が、視覚、聴覚に障害を持つ者として考えるべきことだと思ったからです。教会の中で、そして社会へと私たちが声を届けたいとの思いもありました。

今、社会ではバリアフリーの言葉も定着し、障害のための様々な取り組みがなされているように見受けられます。一方教会でも、車椅子利用者のためのスロープ、また車椅子の設置も増えているようです。しかし一方では、車椅子を自力で操作できない障害者が教会にたどり着くための送迎サポートや、教会内の移動、トイレ利用等のサポートも必要です。さらに、外観からはわかりにくく、精神的な障害を抱えている人たちもあつたでしょう。健常者が、色々な人たちの様々な障害を知り、障害者の人たちに心を寄せることは大事です。また、障害者側からも臆することなく、自己の障害を知ってもらう努力も必要かと考えます。お互いをよく認識し合い、心を伝え合うことが、お互いの立場を理解し合い、共に、一人も取り残さない教会、そして社会へと広がっていくのではないのでしょうか。



わたし あゆ ひかり 私たちを歩ませる光

みやもと あきこ
宮本 暁子

わたし こんかい にほん しょうがいしゃれんらくきょう
私は、今回の日本カトリック障害者連絡協
ぎかい (しょうれん ながさきぜんこくたいかい) はじ
議会(カ障連)の長崎全国大会に、初めて
さんか けい い かみさま おどろ
参加することができた経緯から、神様への驚

きと感謝の気持ちを抱かずにはられません。

きくちきょうかい やまがききょうかい しゆにんしさい
菊池教会と山鹿教会から主任司祭のシル

バノ神父様も含めて13名で参加したのです

が、私たちを長崎大会へと導いてくれたの

は、カトリック教会の入門式を終えたばかり

の求道者であり、全盲の青年です。

かれ とつぜんしつめい くらやみ つ お
彼は、突然失明によって暗闇に突き落とさ

れた絶望と悲嘆の中で、山鹿教会にやってき

きました。

わたし あいだ かれ いた き
私たちは、しばらくの間は彼の痛みを聴き、

なみだ かれ やみ なか ひかり さま
涙をぬぐい、彼の闇の中に光をとイエス様に

祈ることしかできませんでした。それでも、かれ

はミサにきつつ せいしょ おんせい
来続けてくれ、また聖書を音声アプ

リで聞いて読み始めました。さらに、主日のミ

サのパフレットも前もって信徒が録音した

ものを何度でも聞いてからミサに与れるよう

になり、内容を理解しやすくなったようでした。

そんな中で、かれはカ障連の存在と

ながさきぜんこくたいかい かいほう し
長崎全国大会のことを、会報「わ」で知るこ

とになりました。わたし じゆせん ねん
私は受洗して20年にもな

るのに、これまでの会報にはほとんど心を留

めることがありませんでした。しかし、今は、

め み 見えなくなった彼が教会で私たちと共に

福音を分かち合い、祈っているのです、彼と同

じようにどこかに障害のある多くの兄弟たち

がカトリック教会の中で活動されていること

こころ かれ しょうれん し
に心をひかれ、彼にこのカ障連のことを知ら

せました。その時から彼は、「自分と同じよ

うな障害をもっているもっとたくさんの人た

ちと一緒にミサを与りたい!」「一人でも

ながさき い ねが くち
長崎に行きたい!」という願いを口にするよ

うになりました。彼のその強い熱意に、私だ

けでなく教会の他の信徒たちや神父様の心は

うご だい くるま い にんずう さんか
動かされ、2台の車でいける人数で参加する

ことになりました。教会内でもカ障連の会報

「わ」の記事を紹介する機会が多くなりました

た。教会の中で私たちは彼と接することによ

って、視覚障害者が何をどのように手伝って

ほしいか、どのように声をかけてほしいか、

なに き どう すこ し
何に気づいてほしいか等を少しずつ知ること

ができ、教えられてきました。

ぜんこくたいかい さんか がいけん
全国大会に参加して、外見だけではわかり

にくい精神障害等や聴覚障害等で辛い思いを

している方たちもおられることを知りました

た。どの障害の場合であっても、その方たち

を隣人として愛するためには、まず知ること

と関心を持つことが必要だと思いました。ま

たそのためには、どうしても、障害者の側か

らの声、発信が欠かせないと思いました。そ

うすることで、助けられ、必要とされ、共に

あゆむことができると思います。

やまがききょうかい き ひitori せいねん
山鹿教会にやって来た一人の青年が、

かれじしん め み 見えのないのに、目が見えている

私たちを導いてくれる光のように思える時が

あります。これは、わたし にんげん どりよく
私たちが人間の努力による

ものだけではなく、やはり、みくにが来ます

ようにと祈る私たちへの神からの恵みだと思

います。どこの教会でも、そして教会の外の

しゃかい あっても、かれのような存在が増えてい

きますようにと願います。

機関誌「わ」創刊号から 100号までの目次紹介

編集担当 小池 政男、江藤さおり

前回でようやく100号を発行することができました。これも多くの皆様のご支援とご尽力を頂いて来たからこそ達成できたものと感謝しております。

100号という良い機会なので創刊号から100号までの目次をまとめて掲載することと致しました。

これを掲載することにより、今迄力障連として何を活動して来たかご理解頂けると共に活動して来られた諸先輩に敬意を払いたいと思います。但し、今回は創刊号から第50号までとし、残りは次回号で掲載致します。

なお読みが不明な人名については、一般的な読みを付けさせて頂きました。

創刊号 1982.11.23 (S57)

意義ある発足 白柳 誠一
発足にあたって 会長 山田 昭義
総会あれこれ 書記・会計 岡 由起子
全国カトリック障連協設立経過報告

伊達よしえ
「不完全参加と不平等」にならない為に

金澤 恂
全国カトリック障害者連絡協議会規約
秘密の名簿 事務局 長 J・スロイテル
編集後記他 金澤 恂

第2号 1983.6.14 (S58)

手をつなぎ 心の輪をひろげよう
名古屋司教 相馬 信夫
カトリック障連協の目指す処 会長 山田 昭義
「さつき会」10年のあゆみ 長須 剛
友よーA子さんへの手紙ー 伊達よしえ

熱田教会で手話ミサ 穂坂由喜男

この世で生きる クリスマスの障害者
書記・会計 岡 由起子
活動日誌他 事務局 長 J・スロイテル

第3号 1983.8.16 (S58)

互いに分裂なく…互いのことを心し合う世界を目指して 横浜教区司教 浜尾 文郎
報告1・ご署名ありがとう!! 会長 山田 昭義
報告2・今後の課題として

コラム カトリック障連協をみんなでPRしよう
全国カトリック障害者連絡協議会規約
会員募集および会費納入のお願い
加盟団体紹介 その2

事務局日誌他 事務局 長 J・スロイテル

第4号 1984.3.13 (S59)

ごあいさつ 京都教区司教 田中 健一
「障害者と教会」東京集会報告 中原えみ子
加盟団体紹介 その3

函館グロリア会 長塚 明利
報告 全国カトリック聴覚障害者の集い
荒川みどり
人権問題としての障害者問題 岡 由起子
加入のお願い 小教区から福音の輪を

J・スロイテル
その他 ひとこと、アンケートにお答えください、お知らせ、会計報告、事務局日誌

事務局 長 J・スロイテル
編集後記 金澤 恂

第5号 1984.5.1 (S59)

生かし合う力 浦和教区司教 島本 要
韓国の教会を訪ねて 会長 山田 昭義
加盟団体紹介 その4 カトリック身体障害者の会「心の灯」 金澤 恂

障害者に関する米国教書 岡 由起子
アンケートの中間報告 事務局
車イスの神父たち 岡 由起子
事務局日誌、訂正、編集後記他 金澤 恂

第6号 1984.10.23 (S59)

障害者と健常者 仙台教区司教 佐藤 千敬
カトリック視覚障害信者関東大会報告
橋本 宗明

加盟団体紹介 その5 子羊会 伊達よしえ
J・スロイテル
カトリック人権福祉委員会に「要望書」出さる、
会計報告、事務局日誌、編集後記他
金澤 恂

会長 山田 昭義
横浜大会をふり返り
牧 恵子

カトリック聴覚障害者の会
読者の声

NICE ってなに? 司祭 神林 宏和

第7号 1985.11.26 (S60)

カトリック障害者連絡協議会 第一期活動報告
カトリック障害者連絡協議会 第二期活動方針
カトリック障害者連絡協議会 第二回総会アピール

提言中間報告—ナイスに向けて—
一寸一言 生活保障も大切なこと・編集後記他
金澤 恂

第二回総会開かれる 中原えみ子
新役員紹介、第1期決算報告、年間予算
(第二期) 編集後記他 金澤 恂

第11号 1987.12.29 (S62)

障害者とNICE (ナイス) I
名古屋教区司教 相馬 信夫

第8号 1986.4.15 (S61)

障害者への協力 新潟教区司教 伊藤庄治郎
ご復活おめでとう 会長 山田 昭義
会員団体紹介 病者の布教会 J・スロイテル
人権福祉委員会です

第一回福音宣教推進全国会議に参加して
中原えみ子

ナイスあらさがし 司祭 西尾 正二

第一回福音宣教推進全国会議に出席して
船渡川武二

人権福祉委員会秘書 西尾 正二

実態調査を実施しています—ご協力ください—
司祭 西尾 正二

カトリック聴覚障害者の会誕生 牧 恵子

編集後記

第12号 1988.4.26 (S63)

タイの穂坂さんは今… I
原稿募集、教会はひらかれているのか? アンケート
集計結果発売中、事務局報告、編集後記他
金澤 恂

また眠りこまないために 司祭 西尾 正二
嬉しいニュースが二つ 山田 昭義

横浜カテドラル (山手教会) にスロープ完成

ナイスについての座談会 その一

第9号 1986.9.30 (S61)

イエズス様との出会い
東京教区補佐司教 森 一弘

第3回総会イン横浜 参加募集 編集後記他

第13号 1988.9.27 (S63)

関東視協のシンポジウムを終えて 佐藤 操
子羊会創立三十周年を迎えて 伊達よしえ

カ障連第3回総会をかえりみて

副会長 伊達よしえ

「心の灯」創立三十周年感謝祝賀の集い

第3回総会を準備して 会計 中原えみ子

第2期事業報告・第3期活動方針 (案)

解放の神学と障害者 ベリス・メルセス宣教修道

お詫びとお礼

初めて「カ障連」に出席して

女会 弘田しづえ

高知県 力丸 久子

タイの障害者 穂坂由喜男

すばらしい出会い

聖母訪問会シスター 平井 妙子

ひとこと 止めよう、逆「特権意識」

ナイスについての座談会 その2

会計報告、人権委員会への要望書

「家庭の友」9月号 より転載記事第3回カトリック障害者連絡協議会総会 障害の意味を問う—

事務局日誌・編集後記他

ともに生きる— 編集後記他

第10号 1987.5.5 (S62)

1987年ナイス (福音宣教推進会議) と障害者
広島教区司教 三末 篤實

第14号 1988.12.6 (S63)

第一回福音宣教推進全国会議に望む

新しい活動にむかって

山田 昭義

京都より 高田 寿一

とも い ごとう まさひろ
共に生きるということ 後藤 匡弘
こくさいれんらく びょうしゃしょうがいしゃいんかい
国際連絡 フランスのカトリック病者障害者委員会

(CCMH) J・スロイテル
しんこう ひかり つど いとう くにご
信仰と光の集い 伊東 訓子
はんかく ほんせんうんどう たちあ
反核・反戦運動にわれらも立上ろう

ふくかいちょう かなざわ まこと
副会長 金澤 恂
ていせい ついか かいひのうにゆう ねが へんしゅうこうきほか
訂正と追加・会費納入のお願い・編集後記他

だいごう 1989. 4. 4 (H元)
第15号 1989. 4. 4 (H元)

こころ なはきょうくしきょう いしがみただまる
FIAT・マリアの心 那覇教区司教 石神忠貞郎
しゃかいふくしかんけいしよだんたい ねんど
カトリック社会福祉関係諸団体88年度

だひひょうしゃかい しゅっせき かなざわ まこと
「代表者会」に出席して 金澤 恂
しごと たいへいよう
こんな仕事をしていますーアジア太平洋の

しょうがいしゃ おか ゆきこ
障害者とともにー 岡 由起子
しゃしん あいごうかかい しゃしんしゅうだん
写真の愛好家会・写心集団「sensbiity」

つるさき すえこ
鶴崎 末子
じむきょくにつぎ へんしゅうこうきほか
事務局日記・編集後記他

だいごう 1989. 8.22 (H元)
第16号 1989. 8.22 (H元)

とお くに いの たかまつきょうくしきょう さとし
遠い国からの祈り 高松教区司教 深掘 敏
しょうがいしゃ ひ やまだ あきよし
障害者の日について 山田 昭義

うらわきょうく しょうがいしゃ つど ほうこく
浦和教区・障害者の集い報告
さいたまけん えんどう さだお
埼玉県 遠藤 貞男

うらわきょうく しょうがいしゃ つど さんか
浦和教区・障害者の集いに参加して
ぐんまけん おぎの みちよ
群馬県 荻野 道代

わたし ほん
私がおすすめた本
伊達よしえ

ラルシュレポート よしひこ
佐藤 仁彦
しんたいしょうがい たぐち いわお
身体障害とパール 田口 岩男

しゃかいせい み かなざわ まこと
もっと社会性を身に… 金澤 恂
じむきょくにつぎ へんしゅうこうきほか
事務局日記・編集後記他

だいごう 1989.12.26 (H元)
第17号 1989.12.26 (H元)

ことし
今年のクリスマス・プレゼント
にいがたきょうくしきょう さとう けいイチ
新潟教区司教 佐藤 敬一

だい かいけんしゅう とくしゅう セミナーは行動する力
第1回研修セミナー特集 セミナーは行動する力
しょうれん そうごうしかい たかはし ひではる
障連 総合司会 高橋 秀治

さんか みやぎけん かずこ
セミナーに参加して 宮城県 岩田 和子
さんか いしかわけん としこ
セミナーに参加して 石川県 西村 敏子

さんか どうきょうと ほるみ
セミナーに参加して 東京都 中島 春生
さんか
セミナーに参加して

とうきょうと いえ まえだちえこ
東京都(カリタスの家) 前田千恵子
かいけいほうこく かいけい こ
セミナー会計報告 会計 中原えみ子

はいく みなみ あさこ
俳句 南 朝子
じむきょくにつぎ へんしゅうこうきほか
事務局日記・編集後記他

だいごう 1990. 6.26 (H2)
第18号 1990. 6.26 (H2)

ふっかつ し かべ と はず えいえん きぼう
復活 死の壁を取り外す永遠の希望
とうきょうきょうくほさしきょう もり かずひろ
東京教区補佐司教 森 一弘

いえ さとう よしひこ
かなの家について 佐藤 仁彦
しゅわ しきしだい かかく
『手話によるミサ式次第』の価格について

ふくしまけん しょうれん うご しみず ふみお
福島県力障連の動き 清水 文雄
せつり みなみ あさこ
み摂理 南 朝子

やくいんしょうかい ぷろふぃール 副会長 かなざわ まこと
役員紹介 プロフィール 副会長 金澤 恂
やまだ あきよし
山田 昭義

いま しょうがいしゃ いちばんかんが もんだい
今、障害者も一番考えるべき問題
かんしや じむきょくにつし へんしゅうこうきほか
感謝・事務局日誌・編集後記他

だいごう 1990.10. 9 (H2)
第19号 1990.10. 9 (H2)

じごちゅうしん かんが ほう だつび
自己中心の考え方からの脱皮
とうきょうきょうくふくししいんかい つかもといわお
東京教区福祉委員会 塚本伊和男

しゅさい きょうしょうがいしゃだんたいこうりゅう
NCC主催 キリスト教障害者団体交流セミナー
に参加して かなざわ まこと
金澤 恂

ねんどけっさんほうこく
1989年度決算報告
あたらし しょうがいしゃほう なかにしゆきこ
ADA—新しいアメリカの障害者法 中西由起子

ぞん しんぶん ばん
ご存じですか?カトリック新聞テブ版
さとう みさお
佐藤 操

ふくしまけん しょうれん うご しみず ふみお
福島県力障連の動き 清水 文雄
やくいんしょうかい ぷろふぃール 副会長 伊達よしえ
役員紹介 プロフィール 副会長 伊達よしえ

じむきょくにつし へんしゅうこうきほか
事務局日誌・編集後記他
だいごう 1990.12.25 (H2) にほんてんじせいてい
第20号 1990.12.25 (H2) 日本点字制定100

しゅうねんとくしゅうごう
周年特集号
しきじ かんが
「識字」を考える

てんじとしょうかんかんちょう にしお まさじ
カトリック点字図書館館長 西尾 正二
きょうこう せい
教皇ヨハネ・パウロ2世からのメッセージ

にほんてんじ ねんし がいかん ほんしと むねあき
日本点字100年史概観 橋本 宗明
じんけんいしき てんじせいしょ たかはし ひではる
人権意識にささえられた点字聖書 高橋 秀治

てんじとしょうかん れきし かせい
カトリック点字図書館の歴史をふり返ってみて
いずみまさこ
和泉真佐子

あなたは内容証明書郵便を知っていますか?
ながす つよし
長須 剛

わたし てんじ かわい けいこ
私と点字 河合 恵子
すみじ せつてん まな さとう みさお
墨字との接点を学んで 佐藤 操

てんやくしや たちば たけざき ゆうこ
点訳者の立場 獄崎 裕子
もうじん やまぐち かずひこ
フィリッピンの盲人たち 山口 和彦

てんじいちらんひょう
点字一覧表
じむきょくにつし へんしゅうこうきほか
事務局日誌・編集後記他

だいごう 1991. 6.18 (H3)
第21号 1991. 6.18 (H3)

だい かい しょうがいしゃれんらくきょうざいそうかいさいようこう
第4回カトリック障害者連絡協議会総会開催要項
へんしゅうこうきほか
編集後記他

第22号 1991.12.31 (H3) 第4回カトリック
障害者連絡協議会総会特集号

10年目を迎えて 会長 山田 昭義

第4回総会を担って

カソック仙台代表 青山理恵子

カ障連総会に参加して 白柳 聡

Kさんへ 仙台教区 赤井 聖子

チャリティ券にご協力下さい

第3期事業報告

第4期事業計画 (案)

第4期役員

編集後記他

第23号 1992. 8.25 (H4)

お大事に 東京教区福祉委員会 塚本伊和男

第2回研修セミナー開催要項

タイ研修ツアー報告 穂坂由喜男

第1回横浜教区障害者の集い開かる

第7回名古屋教区障害者のつどい ありがとう 村上 かづ

第10回プロテスタント障害者団体交流セミナー

に参加して 金澤 恂

会計報告・編集後記他

第24号 1993. 2.16 (H5)

あなたが教会です 会長 山田 昭義

第2回研修セミナー特集 私たちが教会である

名古屋セミナーの感想 遠藤 貞男

カ障連セミナーに参加して 橋本 宗明

セミナー会計報告 平田 真奈

タイで感じたこと 成瀬 正次

アジア障害者 日本自立生活研修プログラム一

奈良でのミス・ペチャラさんとサリヤンさんのこ

と一 つつみ きよひで

便り紹介 堤 清秀

柳下 琴

編集後記

第25号 1993. 7. 6 (H5)

カ障連を支える会について 会長 山田 昭義

さつき会20周年にあたって

さつき会代表 長須 剛

第2回横浜教区障害者の集い 開催要項

点字内容証明郵便実現への経過

気づき (カトリック新聞より)

障害を持つ人からの声①

障害を持つ人からの声②

障害を持つ人からの声③

感謝・会計報告・編集後記他

第26号 1993. 9.28 (H5)

幸せな障害者 事務局長 J・スロイテル

アジア障害者日本研修滞在日程

カトリック点字図書館創立40周年記念の集い

日本での自立生活研修プログラムの体験から見た

自立生活についての考察

フィリピン研修ツアーのご案内・編集後記他

気づき (カトリック新聞より)

日本の障害者 世界で一番幸運の人達

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

気づき (カトリック新聞より)

よ とも
良き友へのバトンタッチ
へんしゅうこうきほか
編集後記

かなざわ まこと
金澤 恂

だいごう
第28号 1994. 4.26 (H6)

ふつかつ にんげん そんげん
復活と人間の尊厳

なごやきょうくしきやう のむら じゅんいち
名古屋教区司教 野村 純一

だい かいたいかい
第5回大会へのお誘い

ふりっぴんけんしゅうお
フィリッピン研修ツアーを終えて 山口 和彦

りょうれん ささ かい
力障連を支える会とは 会長 山田 昭義

せんだいびょうれん けっせい かえり
仙台病連の結成を願みて しみず ふみお

ひと一青山里恵子さん(カトリック新聞より)

ひと一青山里恵子さん(カトリック新聞より)

しょうがいしゃ ちよくせつ ていきやう きやうかい
障害者に直接サービスを提供する教会

なかにしゆきこ
中西由起子

へんしゅうこうきほか
編集後記

だいごう
第29号 1994.11.15 (H6)

それぞれで働こう—これからの力障連—

たいかいきねん せつきやう ふくいんせんきやう
大会記念ミサの説教—福音宣教とは—

たいかいさんかしゃ かん
大会参加者に関するアンケート

ひと一金澤恂さん(カトリック新聞より)

とうきやう ひろしま うらかた み たいかい
東京から広島へ—裏方から見た大会—

ほさか ゆきお
穂坂由喜男

しんやくいんしょうかい けんしゅう ぼしゅう へんしゅうこうき
新役員紹介・タイ研修ツアー募集・編集後記

ごうがい
号外 1995. 2.21 (H7)

はんしんだいしんさい しょうれんきんきやう
阪神大震災 力障連緊急レポート

ぎえんきん きやうりよく ねが
義捐金のご協力をお願いします。

だいごう
第30号 1995. 2.21 (H7)

だい き む かいちやう やまだ あきよし
第5期へ向かって 会長 山田 昭義

だい きぎやうけいかく
第5期事業計画 1994—1996年

はんしんだいしんさい しょうがいしゃ つうげき
阪神大震災、障害者を痛撃 1995. 1.17

ローマを旅しての堅い報告 橋本 宗明

だい かい しょうがいしゃにほんじりつせいかつけんしゅう
第3回アジア障害者日本自立生活研修(プログラ

ムについて) 中原えみ子

しずおかけんしゅうかいほうこく
(静岡研修会報告) 青野 全宏

びやうしゃ ひ きやうこ
病者の日 教皇メッセージ

しんぶさま しゆわ こうわ
神父様は手話による講話をして

とうきやうと すずき のりこ
東京都 鈴木 典子

へんしゅうこうき
編集後記

だいごう
第31号 1995. 6.20 (H7)

「カトリック障害者情報センター」構想について

「カトリック障害者情報センター」構想について

じむきよく
事務局

だい かい しょうがいしゃじりつせいかつけんしゅう
第4回アジア障害者自立生活研修プログラムとタ
イ研修ツアーのお知らせ

なかばら こ ほさか ゆきお
中原えみ子・穂坂由喜男

そくほう だい かいぜんこく ちやうかくしょうがいしゃ かい
速報! 第4回全国カトリック聴覚障害者の会

【名古屋大会】

「兵庫県南部地震」 西宮市 秋田恵美子

むすめ わたし ねんかん い よろこ つた ため
娘と私の5年間①—活きる喜びを伝える為に一

藤沢教会 唐木 邦子

こんな本を読みました!

ヒューマンケア協会主催カナデアンロッキート

素朴な人々—カナダ自立生活研修旅行—

1994年度決算報告・感謝・編集後記他

ごうがい
号外 1995. 9.19 (H7)

だい かい けんしゅう さんかしゃぼしゅう
第3回リーダー研修セミナー参加者募集

タイ研修ツアー募集要項

だいごう
第32号 1995.10. 3 (H7)

『あなたが教会です』とは?

しものせきろうどうきやういっく はやし ひさし
下関労働教育センター 林 尚志

12月9日は障害者の日です

いただいた義捐金は3団体に贈りました!

再び「障害は恵みか」—司教教書に願いを込めて

— 佐藤 仁彦

新連載 障害者と職業 穂坂由喜男

娘と私の5年間②—あなたはどんな子供なの—

ふじさわきやうかい からき くにこ
藤沢教会 唐木 邦子

しょうがいしゃ いちしんと きやうかいいうんえいさんか
障害者も—信徒として教会運営参加を—

「東京教区障害者の集い」報告— 金澤 恂

だい かいぜんこく ちやうかくしょうがいしゃ かい かんどう
第4回全国カトリック聴覚障害者の会 感動、そ

して笑い、涙ありがとう—名古屋大会大成功裏に

幕—

へんしゅうこうき
編集後記

だいごう
第33号 1996. 2. 6 (H8)

あたらし とし あたらし かのうせい う
新しい年は新しい可能性を生む J・スロイテル

こんな本を読みました!

「正平協」全国大会・広島に参加して—まだ足り

ない障害者の問題意識— 金澤 恂

「どうせやっても駄目」はダメ—第3回カ

障連研修セミナー・知的障害を学ぶ—

次号からテープを発行します!

むすめ わたし ねんかん ひと さき
娘と私の5年間③—おおぜいの人に支えられて—

ふじさわきやうかい からき くにこ
藤沢教会 唐木 邦子

しょうがいしゃしよくぎやう
障害者と職業③ 穂坂由喜男

とうしょ あい なか 池田きょうかい わき きよし
投書 愛の中で 池田教会 脇 清
編集後記

第34号 1996. 5.28 (H8)

しょうがい おもに にな ひ
「障害の重荷をともに担える日をめざして」の
しゅつばん 出版にあたって しゃかいしきょういんかいいいんちよう
社会司教委員会委員長・

じんけんふくしいんかいいいんちよう さとう けいいち
人権福祉委員会委員長 佐藤 敬一
かくち ぶんしよしゅつばんきねん かいさい
各地で文書出版記念セミナー開催

だい かい しょうがいしゃじりつせいかつけんしゅう
第4回アジア障害者自立生活研修プログラム報告
なかほら こ
中原えみ子

かい まみ ゆうじん しょうがいしゃ けんしゅう
垣間見たタイの友人、障害者たち―「研修ツアー」
さんか かなざわ まこと
に参加して― 金澤 恂

しょうがいしゃ よ
「障害者プラン」を読んで
ほんし き かた もう こ
本誌をテープで聞きたい方、お申し込みを

ああ、あの日3月10日―戦後50年代の回想―
たけい はつえ
武井 初枝

しょうがいしゃ しょくぎょう ぼさか ゆきお
障害者と職業③ 穂坂由喜男
だい かいやくいんかい ひら
第32回役員会が開かれました！

第35号 1996.10.29 (H8)

きょうかい かみ くに けんせつ きよ
教会が「神の国」建設により寄与するために
じむきょく
事務局

きょうかい かみ くに けんせつ きよ
教会が「神の国」建設により寄与するために～
しょうがい もの ていげん ふるかわ つとむ
障害をもつ者からの提言～ 古川 勉

ふくいんせんきょう し しょうがい とくしゅう
『福音宣教』誌が「障害」を特集！
ひ のぼ しょうがい こ
陽はまた昇る、障害を越えて

さいたまけん よこた はるみ
埼玉県 横田 晴美
むすめ わたし ねんかん さいしゅうかい きぼう ひかり み
娘と私の5年間（最終回）―希望の光を見つめな

がら― ふじさわきょうかい からき くにこ
藤沢教会 唐木 邦子
100円と500円

てんじとしょかん はしもと むねあき
カトリック点字図書館 橋本 宗明
ふしめ むか かつどうだんたい
節目を迎えた活動団体

しょうがい おもに にな ひ
シンポジウム「障害の重荷をともに担える日をめ
ざして」

へんしゅうこうき
編集後記

第36号 1997. 4. 8 (H9)

きょうかい かみ くに けんせつ きよ
教会が「神の国」建設により寄与するために②～
しょうがい もの ていげん ふるかわ つとむ
障害をもつ者からの提言～ 古川 勉

せいしょ しんきょうどうやく よ かいちらん
『聖書 新共同訳』読み替え一覧
しょうがいしゃ けんりせんげんひる よ
障害者の権利宣言拾い読み

よこはまきょうく とむ あゆ つど しょうがい かきね こ
横浜教区『共に歩む集い』～障害の垣根を越えて
～

かわってくる ふくし わたし しゃ ちてき
変わってくる福祉と私たちキリスト者―知的ハン
ディを持った人（成人）の立場から

りそう ふくし けんせつ かんごく さとう よしこ
「理想の福祉タウンを建設したい」―韓国・カト
リック障害人父母会の皆さん― 高橋 秀治

第6回カトリック障害者連連大会へむけての動き

だい かい しょうれんひろしまたいかい うご
第6回カトリック障害者連連大会へむけての動き
ひろしまたいかいじつこうふくいんちよう まつだ としあき
広島大会実行副委員長 松田 俊昭

「アカス」事件で茨城県が謝罪
だい かい しょうがいしゃれんらくきょうぎかい ひろしまたいかい
第6回「カトリック障害者連絡協議会」広島大会

への呼びかけ
ごうがい 1997. 6.10 (H9)

だい かい しょうれんそうかい ひろしまたいかい さんか
第6回カトリック総会 広島大会に参加しませんか!!
カトリック障害者連絡協議会 第6回総会広島大

会開催要項 テーマ 「障害の重荷をともに担
える日

をめざして―あなたの声が聞きたい―
だい 1997.12.16 (H9)

だい かいひろしまたいかいとくしゅう ちてきしょうがいしゃ てんれいさんか うった
第6回広島大会特集 知的障害者の典礼参加を訴
える！

だい かい しょうれんひろしまたいかい お
第6回カトリック障害者連連大会を終えて
ひろしまたいかいじつこういんちよう まつおか としお
広島大会実行委員長 松岡 俊男

みさのなかでの分かち合い 手話と私
みはらし ど ひ よしえ
三原市 土肥 芳恵

わかち合い
だい きじょうけいかく
第6期事業計画

だい きよさん
第6期予算
あたらし やくいん き
新しい役員が決まる！

よこはまきょうく とむ あゆ つど
横浜教区「共に歩む集い」から
ふじさわきょうかい からき くにこ
藤沢教会 唐木 邦子

アメリカの「障害者のための全国カトリック
じむしょ ほうもんほうこく とうきょう なかにしゆきこ
事務局」訪問報告 東京 中西由紀子

しょうがいしゃけんしゅうせいげんき きこく
アジア障害者研修生元気に帰国！
へんしゅうこうき
編集後記

第38号 1998. 4.28 (H10)

こころ あり かいちよう やまだ あきよし
心を新たに 会長 山田 昭義
やくいん たんとうぶんやき
役員を担当分野決まる

はちおうじ しんじむしょ いてん
八王子に新事務所を移転
ちようかくしょうがいしゃ ぜんこくたいかい ほうかいどう
聴覚障害者の全国大会が北海道で！

うらわきょうく ねんたいかい じつこういんちよう
浦和教区2000年大会へスタート―実行委員長は
おのへいはちろう
小野平八郎さん―

ふ か し ぎ しょうがいしゃ しんり なかま だれ
不可思議な障害者の心理―仲間いじめから誰と
「ともに」か？ かなざわ まこと
金澤 恂

ほんとうの交流とは さいとう よしこ
佐藤 仁彦
う まれてきてはいけないの？―出生前診断をめ
ぐって― ふじさわきょうかい からき くにこ
藤沢教会 唐木 邦子

編集後記

第39号 1998.10.13 (H10)

情報センター待望オープン—マリアの宣教者フ
ンシスコ修院が協力—

迎えようアジアの仲間たち—本年度のアジア
自立研修プログラム実施のお願い—

会長 山田 昭義

カ障連ハイライト

1997年度会計報告

報告 横浜教区福祉委員会「共に歩む集い」への
課題 後藤 匡弘

読者の声 群馬カトリック盲人会 1泊の旅
小野平八郎

読者の声 前号 金澤氏の一文に疑問?
東京都 山口 和彦

読者の声 教会の福音化とは 匿名
読者の声 アジア障害者プログラムを引き受ける
側として 後藤 匡弘

出生前診断をめぐって(2)—「おそれ」を超え
て 藤沢教会 唐木 邦子

カ障連総会(大会) 指針

編集後記

第40号 1999. 2. 2 (H11)

広島から高崎へ「カ障連山口」発進
動きははじめました!!カトリック障害者情報センタ
ー

カトリック障害者情報センター開所記念
「障害当事者からみた福祉の勉強会」8回シリーズ

第5回日本カトリック聴覚障害者の会 全国大会
(北海道大会) 報告 会長 白柳 聡

タイ盲女性の研修事業に協力して
広島ブレイルセンター 組地 清志

2000年第7回カ障連全国大会・浦和教区高崎大会

キャンペーンキャラバン隊、茨城県「家庭」
集会訪問— 大沢 博之

大聖年担当準備委員会よりの報告
担当委員 丸岡紀美子

出生前診断をめぐって(3)—むさぼる社会から
はぐくむ社会へ— 藤沢教会 唐木 邦子

山口和彦氏の疑問?にお答えする
顧問 金澤 恂

障害者番組に注目しよう

第4回研修セミナー開催要綱・編集後記

第41号 1999. 4.20 (H11)

大聖年連続講話スタート!—黙想と祈りのために—

4月 大聖年のための黙想のヒント
東京教区補佐司教 森 一弘

5月 大聖年はキリスト者としての新しい出発の
年 名古屋教区司教 野村 純一

6月 2000年に向かって J・スロイテル

7月 大聖年をお祭りさわぎの年にしないために
神父 西尾 正二

要望書 いのちをその始まりから大切にしてくだ
さい 厚生大臣 宮下 創平殿

日本カトリック司教協議会
時代を切り開くカ障連セミナー

ダイナミックな活動への予感—第39回役員会
自分から自分への手紙—あなたという自分—

佐藤 仁彦
コフリン神父—神様への道行きの途中にも手話
(1) シスター F.M.レオナルド

日本語訳 森 壮也

着々と動いています!情報センター
情報センター年間活動計画決まる!

号外 1999. 6. 8 (H11)

フィリピン研修ツアー募集要項
障害者情報センター今後の行事予定

第42号 1999. 8.17 (H11)

第7回カ障連全国大会の祈り
大聖年連続講話(2)

8月 人々の心の目線を
下関・労働教育センター・神父 林 尚志

9月 父なる神の愛
小名浜教会主任 モレン・ヘンリールイ

10月 2000年に向けてのわたし
北上教会主任 梅津 明生

11月 ちいさなひとこそ、福音の証人
一関教会主任 土井 勝吾

大聖年・ヨーロッパ巡礼ツアーへの参加を!
全国大会場で役員会・現地合同委員会

対談 出生前診断をめぐって(最終回) 一地上を
旅する教会とともに—

藤沢教会・八王子教会 唐木 邦子・中原えみ子

コフリン神父一様への道行きの途中にも手話

(2) シスター F.M.レオナルド
日本語訳 森 壮也

一粒の種をはぐくむ情報センター 待ちに待った
“精神障害者の集い”

カトリック精神障害者の集い(仮称)のお知らせ
横浜・大津教会 村田 隆泰

いわゆる「健常者」の問題
ラルッシュカナの家 佐藤 仁彦

1998年度カ障連決算報告
情報センター開所1周年記念講演会

4月以降のカ障連事務局・各委員会の動き・
編集後記

第43号 1999.12.29 (H11)

障害者情報センター開所1周年
大聖年連続講話(3)

12月 大聖年を前にして
東京教区司祭 粕谷 甲一

2000年1月 大聖年開始にあたって
浅草教会司祭 沢田 和夫

2月 時の神秘
東京カトリック神学院長 寺西 英夫

3月 自分との和解 浦和教区司教 岡田 武夫
カトリック精神障害者の集い報告 村田 隆泰

カトリック精神障害者の集いに参加して
福岡・大名町教会 河合 章江

情報センター1歳の祝い
指導司祭 J・スロイテル

障害者黙想会に参加して
横浜教区磯子教会 小俣 照信

第1回「障害者黙想会」に参加して
保土ヶ谷教会 小池 靖子

コフリン神父一様への道行きの途中にも手話
(3) シスター F.M.レオナルド
日本語訳 森 壮也

大聖年障害者の日の周知と活用を司教団に要請
第8回アジア障害者 日本自立生活研修プログラ

ム実施される プログラム担当 中原えみ子
フィリッピン・バコロド研修ツアー報告

研修ツアー総務担当 中原えみ子
薬害ヤコブ病裁判への署名活動にご協力を

事務局日誌・編集後記

第44号 2000. 2. 1 (H12)

第7回 カ障連浦和教区高崎大会へのお誘い
会長 山田 昭義

大聖年ヨーロッパ聖地巡礼の旅

第45号 2000. 5.16 (H12)

高崎から新時代へ飛躍しよう!
会長 山田 昭義

第7回 カ障連全国大会の準備状況について
高崎大会実行委員会事務局 小池 政男

特集 広がる「オリーブの会」の枝—生きる—
小平教会 田村 昌子

「オリーブの会」について 代表 河合 章江
「オリーブの会」家族の集いに参加して

石川県金沢市 寺島 順子
人は人に支えられて回復する

青森市 村木 義一
霊的花束のご送付を 大聖年担当準備委員会

各分野で大聖年を活用してほしい 司教団大聖年
特別準備委が回答

情報センター年間計画決まる!
事務局日誌・新しい祈り・編集後記

第46号 2000. 9. 5 (H12)

みごとな果実、カ障連高崎大会
会長就任のあいさつ 会長 中原えみ子

もっとも弱い人たちの声を響かせた大会
新しい役員を紹介します

カ障連総会報告 第6期事業報告・会計報告
第7期事業計画・予算

カトリック障害者連絡協議会規約改正
カ障連高崎大会分科会報告

特集 私たちの聖地巡礼 大阪教区 蔭山 眞
大聖年イタリア巡礼感動の旅

巡礼と芸術探訪 平針教会 岩瀬 真二
みんな兄弟、支える神父様

吉祥寺教会 高山 協子
柁をはずした心の旅 吉祥寺教会 脇田 かおり

ロームジャパン・バンザイ
福岡教区 原田 治子

自分の世界を飛び出した旅
名古屋城北橋聖心教会 石原ヨシ子

高崎大会の思い 静岡市 佐藤 仁彦

あき ぎょうじよてい しょうがいしゃじょうほう
秋の行事予定一カトリック障害者情報センター
こうえんかい
講演会一

だい かい しょうがいしゃにほんじりつせいいかつけんしゅう
第9回アジア障害者日本自立生活研修プログラ
ム今年も始まります・編集後記

だい ころ
第47号 2001. 3.13 (H13)

かみ くに ぶんしょ しきょうだん
「神の国」文書、司教団へ
「カトリック名古屋地区障害者連絡会」がスター

ト
だい かいしょうがいしゃ もくそうかい さんか
第2回障害者の黙想会に参加して

ふじさわきょうかい から き くにこ
藤沢教会 唐木 邦子
「ヨーロッパ巡礼」 福岡市 河合 章江

かいごほけん しょうがいしゃ
介護保険と障害者(1) 会長 中原えみ子

だい かい しょうがいしゃにほんじりつせいいかつけんしゅう
第9回アジア障害者日本自立生活研修プログラ
ム無事に終了いたしました！ 中原えみ子

わたし せんれい こだいらきょうかい たむら ますこ
私と洗礼 小平教会 田村 昌子

だい かいやくいんかい ほうこく
第45回役員会の報告から
やくがい やまい あら しよめいかつどう ねが
薬害ヤコブ病の新たな署名活動へのお願い
コムニタス 占部 裕子

へんしゅうころき
編集後記

だい ころ
第48号 2001. 9.18 (H13)

にほん しきょうようぎかい こうにんだんたいしようにん
日本カトリック司教協議会 公認団体承認される
だい かいけんしゅう かいさいようころ
第5回研修セミナー開催要綱
たいかい ねん
大会まであと2年

しょうれんおおさかたいかいじつこういんちやう むらた まさる
力障連大阪大会実行委員長 村田 優
だい かい しょうがいしゃにほんじりつせいいかつけんしゅう
第10回アジア障害者日本自立生活研修プログラ
ム研修者決定

「オリーブの会」の活動について
だいひやう かわい あきえ
代表 河合 章江

しょうがいしゃじょうほう じょうきやう
カトリック障害者情報センターの状況について
まるおかきみこ ちばけん さとう みさお
丸岡紀美子さんのこと 千葉県 佐藤 操

やくがい びやうそきぜんめんかいつつ しよめいかつどう
薬害ヤコブ病早期全面解決にむけての署名活動の
ほうこく おれい
報告と御礼 大阪市 占部 裕子

だい かいやくいんかい ほうこく
第47回役員会の報告
おおさか うご おも
大阪の動きに触れさせてもらい思うこと
しずおかし さとう よしひこ
静岡市 佐藤 仁彦

へんしゅうころき
編集後記

だい ころ
第49号 2002. 5.14 (H14)

おおさかたいかい じゆんびかそく
大阪大会への準備加速！
しょうれんやくいんかい じつこういんちやうかいぎ
力障連役員会と実行委員会合同会議

だい かいけんしゅう しょうがいしゃ じんけん
第5回研修セミナー「障害者と人権」
くばたせんせい ふたた きやうだん
窪田先生を再び教壇へ！
たむらまさこ ふた とうころ
田村昌子さんから二つの投稿

しんたいしょうがいしゃかいじよけんほうあんせいりつ
身体障害者介助犬法案成立へ
だいさんしゆ だいまんしゆゆびん ね あ
第三种、第四種郵便が値上げされる?!

せいしんぶんれつびやう どうごうしつちやうしょう めいしょうへんころ
精神分裂病は「統合失調症」に名称変更
いitalia せいちじゆんれい たび かさまつ ただし あきこ
イタリア聖地巡礼の旅 笠松 忠士・噉子

くすのき よしひろ きゅうせい
楠 由弘さんの急逝
やくがい びやうそきぜんめんかいつつ ほうこく おれい
薬害ヤコブ病訴訟全面解決のご報告と御礼

ふくかいちやう うらべ ゆうこ
副会長 占部 裕子
だい かい しょうがいしゃにほんじりつせいいかつけんしゅう
第10回アジア障害者日本自立生活研修プログラ
ム終了 会長 中原えみ子

へんしゅうころき
編集後記

だい ころ
第50号 2002.10.29 (H14)

おおさかたいかい ひろ しえん わ
大阪大会、広がる支援の輪
おりーぶの会 びやうき かりかい ふか どうきやう
オリーブの会一病気への理解を深める一東京で

やまだいし かんじゃ かぞく こうえん
山田医師が患者と家族に講演一
ぱりー旅行記 むらた たかやす
村田 隆泰

しょうがいしゃこうりゅう ねん そうかつ
アジア障害者交流プログラム10年の総括
かいちやう なかはら こ
会長 中原えみ子

し わたし たいけん こだいらし たむら まさこ
詩 私の体験から 小平市 田村 昌子

せいしよ しょうがい しょうれん しょうれん わ だ としかず
聖書における障害 力障連・キ障連 和田 俊一
びやうらんどうあら だんかい おおさかふ ゆうこ
ヤコブ病運動新たな段階 大阪府 占部 裕子

せいめい めぐ なか ほつぱいちゅう
CD「生命 恵みの中に」発売中
しょうがいしゃれんらくきやうぎかい ねん どけつさんほうこく
カトリック障害者連絡協議会 2001年度決算報告



れんらくさきおよ にゆうかい もう こ さき
連絡先及びご入会の申し込み先
じ む きょく な ご や し しょうわくえほうちやう
事務局：〒466-0037 名古屋市中区昭和区恵方町2-15
な ご きやうく ふくしいんかいしつない
名古屋教区カリタス福祉委員会室内
にほん しょうがいしゃれんらくきやうぎかい
日本カトリック障害者連絡協議会
Tel：052-852-1426 fax：052-852-1422
ゆうびんきょくふりかえころき ぎぼんころ
郵便局振替口座番号：00100-7-31254
どうふう ふりこみやうし りやう
(同封の振込用紙をご利用ください)
かい ひ ねんかん くち えん
会 費：年間1口 1,000円
(団体 10口以上 個人 1口以上)
かにゆうしゃめい にほん しょうがいしゃれんらくきやうぎかい
加入者名：日本カトリック障害者連絡協議会